

「GNSS 国際シンポジウム 2015」論文発表・参加報告

2015年11月16日から4日間にわたり、7年ぶりに日本開催となったGNSS国際会議「IS-GNSS 2015」が、紅葉の美しい京都「みやこメッセ」にて開催されました。本会議には、23の国や地域から350名以上のGNSS研究者・開発者が集い、140の論文発表と議論が行われました。

弊社は、IS-GNSSのプラチナスポンサーとしてのみならず、山川教授(京都大学 内閣府宇宙政策委員)が委員長を務める組織委員会に参画し、IS-GNSS国際シンポジウムの運営支援、展示会における準天頂衛星関連製品の紹介を行いました。

初日の基調講演では内閣府宇宙戦略室および、自民党「G空間情報活用推進特別委員会」委員長の衆議院議員 新藤 義孝様から、準天頂衛星の整備状況やその将来展望(特にアジア太平洋地域での準天頂衛星の貢献への期待)を、G空間情報の利用拡大に向けた取り組みとともにご紹介いただきました。また、各国の衛星測位プロバイダー国からも、それぞれの測位システムの取組状況や計画等が発表され、最新の衛星測位情報が共有されました。2日目からはテーマごとの論文発表を中心に議論が行われました。

弊社からは精密測位をテーマとした、「Semi-dynamic Reduction for cm Accurate Positioning」、「Basic observation about effect of the QZSS's augmentation data at the top of Mount Fuji」の2つの論文を発表しました。前者は、センチメートル級測位に必要な地殻変動補正方法として弊社開発の「セミ・ダイナミック・リダクション」に関するものであり、後者は、高標高地域におけるCMAS(準天頂衛星センチメートル級測位補強信号)の効果を検証実施した富士山頂での実験を報告しました。

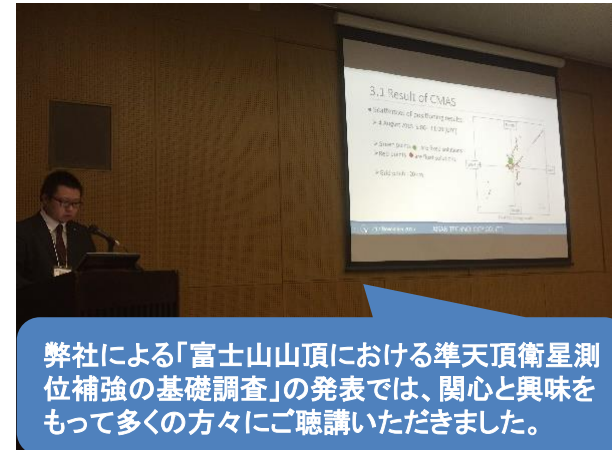
更には、準天頂衛星を利用した観光バスによるデモンストレーション・ツアーや、海外の方々に京文化を伝えるレセプション等も催され、活発な交流と最新のGNSSの技術、情報に触れる機会となりました。高精度測位分野においては、弊社の技術を活かせるテーマは多く、継続的な技術研究と、アプリケーション提供に向けて今後も推進してまいります。



「IS-GNSS2015」初日、基調講演の会場。
国際会議ですので当然、全て英語です。



弊社展示ブースにて、来賓挨拶された新藤衆議院議員(左3人目)からも、様々なご質問やご意見を頂戴しました。



弊社による「富士山山頂における準天頂衛星測位補強の基礎調査」の発表では、関心と興味をもって多くの方々にご聴講いただきました。

【免責とお断り・注意事項】

本通信及び弊社ホームページの記載事項は、株主・投資家の皆様お客様に対し、迅速な情報公開・提供を目的とし、投資勧誘を目的としているものではありません。掲載内容により被った損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。